



町に関係する話題など広報係が取材したできごとをご紹介します。



心の底から、みんなで楽しむ

平田地区で12年ぶりにお法使祭が開催

平田地区で、10月30日に「お法使祭」が開催されました。神幸行列では、12年ぶりに町に帰ってきたみこしを担ぎ手が元気よく担ぎ、子どもや大人からなる笛太鼓の道楽や道踊りの集団を先導として、町内を練り歩きました。

集まった人々は、笑顔でそのようすを見守りつつ、写真を撮ったり音頭をとったり、思い思いに楽しみました。

今回は震災の影響を考慮し、例年通りの食事の振る舞いなどは控えましたが、実行委員会の計らいにより手作りの塩おにぎりが振る舞われました。

今月号の表紙にもなったじゃがらん(じゃんがら)は、若い男性が色彩豊かな衣装に身を包み、化粧を施して踊る集団で、一説によると祭神が女神であるため、若い男性を好むのだと言われています。この日も、地元の男子高校生が、このじゃがらんに扮し道踊りなどを披露しました。

平田のお米でできた、真っ白なおにぎりに、大人も子どもも喜び、「おいしい」「もう5つ食べたよ」など、そこかしこから声が聞こえてきました。

中には、仮設団地からこの祭りのために駆け付けた人もいて、待ちに待った祭りを心の底から楽しんだ一日となりました。



①夕日に照らされるみこしを元気に担ぐ若者たち
②「お法使祭」の旗が風にたなびきます③④⑤12年ぶりの祭りにみんな笑顔です⑥神妙な面持ちの二人。お仮屋の前で舞いを披露しました⑦振る舞われたおにぎりを口いっぱいほおぼる子ども

Best Smile

今月のベスト笑顔

